みたかハンディキャブ交流誌

あ　お　ぞ　ら

【第１１９号】　平成２６年　夏号

発行日　２０１４年7月x日
協力：朗読ボランティア　≪ういろうの会≫

千本松牧場～那珂川苑～那珂湊おさかな市場をめぐる一泊交流会

恒例の一泊交流会は、６月２８日（土）、栃木の那珂川苑をめざして、『ふれあい号』を先頭に市役所を出発しました。利用者と付き添いの方あわせて２５名、ボランティア１８名、総勢４３名の旅です。

その日の昼食は千本松牧場でジンギスカンに舌鼓。あいにくの雨模様で、外の見物はできず、売店でのお買い物が中心となりました。那珂川苑に到着し部屋に入ると、すぐに温泉。浴場内もバリアフリー。快適な環境でした。那珂川苑での夕食は、淡く期待していたフグこそ出ませんでしたが、十分なご馳走だったと思います。カラオケの宴会は残念ながら８時半までの時間制限。しかし坂本ボランティアの南京玉すだれに参加者は喝采。楽しい宴を過ごしました。

２９日（日）は、一路那珂湊へ。お魚市場での昼食は、豪華おさしみ定食。

千本松牧場での昼食

那珂川苑での夕食

南京たますだれ熱演

那珂湊おさかな市場での昼食

おさかな市場には、安くて新鮮なお魚であふれていました。次はめんたいパーク。明太子の製造工程の見学、無料の試食、飲み放題のソフトドリンクなどサービスも満点。それぞれ明太子のお土産を手に、帰路へと着きました。バス車中は、カラオケ大会で盛り上がり、ほぼ予定時刻に三鷹市役所に到着。旅の余韻を胸にそれぞれの住まいに！

一泊交流会に参加して

参加された皆様からよせられた今回の交流会の感想です。順不同で掲載させていただきます。

利用会員　香取　弘子さん

私は生かされている。野の草と同じである。路傍の小石とも同じである。生かされているという宿命の中で、せいいっぱい生きたいと思っている。せいいっぱい生きるなどということは難しいことだが、生かされているという認識によって、いくらか救われる。（東山魁夷）

　私はこの文章に何度となく壁にあたったときに慰められる。

こうして皆様と、小旅行ながらも、食を共にし、一緒に行動できたことは幸せなことだとつくづく思う。

荒れる日になるかも知れないという想定でのスタートは覚悟の上だったけれど、その分、計画を立案された役員さんはじめ、ボランティアさんのご苦労、お力添えに感謝！

千本松牧場で大降りにみまわれ、動物たちにお会いすることの出来ない残念さはあったが、那珂川苑のゆったりした庭、木々の緑。時折激しく打つ雨の音にさえ、非日常の中に身をゆだねる心地よさを感じた。

これも皆様とご一緒に共有できたひとときに暖かいものを感じたせいなのだろう。

毎回のことながら、宴会は楽しくカラオケに終わった。

那珂湊のかすんで見える漁船に海育ちの私はふるさとを思った...。お刺身定食はさすが漁港ならではのもの！

　美味しかったア～！。

帰路、バスの中での高齢社会の話に愕然。（わが町三鷹も例にもれず）

　「ボケない音頭」をしっかり胸に叩き込んで.....。貴重な楽しい旅でした！

　　１１月には又会える。きっとお会いできるのだ！

　それまで皆様　コピット頑張って　ごきげんよう♪♪。

利用会員　篠崎　節子さん

一泊交流会に参加して

6 月 28 日（土）3 時過ぎに、今夜の宿「那珂川苑」へ到着。木々に囲まれた静かな宿でした。私達は、Ｈさんと 2 階の和室へ。夫には簡易ベッドが用意されていました。

一休みしていたら、「お風呂に行きましょう。」とＧさんが迎えに来てくれました。部屋に戻って来た夫は、ベッドに横になったと思ったら、スヤスヤと眠ってしまいました。いつもより早く起き、バスに揺られ、お昼ご飯の時の生ビール、温泉とくれば・・・・ネ！

お待ちかねの夕食は、量も味もちょうど良くおいしかったです。鮎釣りの好きな夫は、久し振りの塩焼きで嬉しそうでした。そうそう、芸達者なＳさんの『南京玉すだれ』は、とても楽しかったです。

夕食後、夫がベッドに入ってから、大浴場に一人でゆっくり入り、お肌もツルツル。パジャマのまゝ、お友達の部屋を訪問。介護の先輩、ボランティアさんと一緒におしゃべりをしていて、「こんな風に過ごせるのが一泊交流会なのだ」と改めて気づいたひと時でした。

次の日訪れた那珂湊のレストランの３階からは、広―くて青い太平洋が見渡せました。食後、皆さんは魚市場へ行かれたようですが、私達はＳさんに車椅子を押してもらって、海釣りをしていた地元のおじさん達と、海風に吹かれながら釣り話をしている夫は楽しそうでした。

今回は、私が足を痛めていたので、全面的にボランティアさんのお世話になり、本当にありがとうございました。

利用会員　日野　正英さん

『　那珂川苑　（栃木県）　にて』

ぼくは２～３度ほどここに来た。今日は電動くるま椅子に乗ッかってその点用意周到、そしたら雨だった。

どこにも出かけられず、館内の絵を見て回ったわけでもなく、本のコーナーを見た。２０冊ばかりなのにその中で、

「ぼくが見た中国の素顔」　　菊池　守昌

というところを興味のなさで１３ページほど読んだとき、菊池という名前になんとなく、～　～それは僕の前に　でっかい馬の絵、（２～３メーターはあろうかと思われる）の著作者のことであった。

１９６１年　茨城の太子町の生まれ。脳性小児まひ、という病気にかかり、全身麻痺、歩きもダメ、飲み、食べることも困難、言葉もひどい。そのかれが素晴しい作品にえふでをそえて行く。強い精神力がどこからきているのか、

興味しんしんです。　2014.6.30

利用会員　手塚　昌子さん

逢えたね　！

郷里栃木に住むその人とは、夫が血縁のない兄弟として 18 年を暮したものでした。以来幾星霜、夫は遠出のきかない体になり、その弟も言葉と体に後遺症を残す、無理ができない状態にあります。今回の旅を妻同士が語り合い、この機会に逢わせてやりたいと強く願ったのです。交流部担当に相談し、宿との連携を願い、その機会を作って頂いたのでした。

「〇〇、お前、年とったなあ」と夫は繰り返し、弟はただ、じっと見つめて・・・。私は長い間の念願がかない、夫には、唯一近しい人の顔が判別できる内に逢わせることが出来たことに、それに関わって下さった方々に深く感謝しておりました。言葉は交わせずとも「今、向かい合っている君を大切に思っている」という気持ちがある限り通じるのだということを、形として見せてもらいました。

帰宅して、

「旅行、楽しかったね」という問いかけに

「ふーん、どこ行ったんだ？」と宣う。

「那珂川苑で〇〇さんに逢ったよね」

「うんっ　うんっ」――――私はこれで充分。

時間と薄れていく記憶は、待ったなしです。あの時、逢ってもらって本当によかった、ときっと思い返す大切な場面になるでしょう。

障害や病を抱えた家族は、条件が充たされれば、やはり外に出たほうが良い。尊敬できる介護人にも、好ましい家族にも、それをサポートしてくれる方々にも出会えます。

社会の中で、今、私はどのあたりでどんな暮らしをしているのか見つめ直しています。

声が・・・

最近、涙したことありますか？

私、20 年以上泣いてないんじゃないかしら。それが今回の旅で、涙が落ちそうになって思わず下を向きました。帰りのバスの中で。

介護生活に入る前、40 年ほど絵を描いていたのですが、絵は伝えたいことを技術の力を借りて仕上げていくもの。ですが技術だけだと、うまい絵にはなりますが、良い絵とはいえません。自分のハラワタをすべてさらけ出さねば、人の心には届かないと、創作を中断した今になって思い知った有様です。

バスの中で、疲れがみえはじめた夫に注意を払いながらカラオケを聞き、唱和し楽しんでいるとき、その声が響いてきたのです。耳にではなく、胸に。何の歌かわかりませんが歌詞ではなく、声にハラワタがまぶされて（変な表現で失礼！）いたのでしょうか。いきなり泣きそうになりました。前日から、その利用者さん達には好ましいものを感じていました。介護する方もされる方も自然で、労わりと励ましに満ちていて、そのご苦労たるや大変そうで、心身ともにさぞお疲れだろうと、そんな思いでいたところでした。唐突ですが、やっぱり人間が一番素晴しい。懸命な姿勢が尊く、美しいと感動し、共感していたのです。旅では、毎回、素敵な人や出来事に出会えます。今回も小康を得て参加できたことを喜び、帰宅した今は、親身のお世話と出会いに深く感謝しつつ、次の機会に備え、現状維持できるよう祈るような思いでおります。　　多謝

利用会員　鈴木　ますみさん

２０１４一泊交流会の思い出

午前７時に、家に迎えに来てくださった時から雨。市役所で、ふれあい号に乗り込んでからも雨。傘をさして、道を行く人、合羽を着て自転車で行く人など、雨の日に外出しない私にとっては、珍しい光景で、楽しく眺めていた。バスの中での、記念日のクイズは、とても面白くて、夢中になった。３枚配ってくださった歌の歌詞のプリントには、歌いたい歌は沢山あったが、あまり活用されなくて、残念だった。みんなで、沢山歌いたかった。目的地の千本松牧場に着いた時も、雨が強くて、急いで屋根のある建物へ逃げ込んだ。ジンギス館での昼食は、珍しいジンギスカンで、マトン、牛肉、などがあり、久しぶりに、羊の肉を食べて、とても美味しかった。野菜ももやしが多く、食べやすかった。牧場で、出された牛乳は、濃厚でとても美味しく、満足。また、その後で、買って食べたソフトクリームも、東京では食べられないくらい、濃厚で美味しかった。那珂川苑に着いた時も、まだ降っていた。部屋に入って、しばらくして、午後４時ころから、家族風呂。電動ベッドだったけれど、ベッドへ上がろうとして、すべり布を持参するのを忘れたので、四苦八苦。ちょうどその時、ボランティアさんが風呂を出たかと見に来てくださり、手助けしていただいて、やっとベッド上へ移動できた。

夕食も、豪華で、アユや鍋、炊き込みご飯など、お腹いっぱいいただいた。

翌日の朝まで降っていた雨が、出発時にはやんで、お日様も出てきた。昼食の市場寿司の刺身定食は、まぐろや鯛、ホタテに青柳など、沢山でとても美味しかった。めんたいパークでは、見学は早めに切り上げ、近くの海を見に行った。海風が心地よく、白い波がきれいだった。三鷹市役所に近づく頃、再び雨。でも、とても楽しい二日間だった。ハンディキャブの皆様、ボランティアでお世話になった皆様、本当に有難うございました。

運転ボランティア　戸内　大介さん

一泊交流会を終えて

私は個人タクシーを生業とし、複数個所でボランティア活動をしているので、キャブの活動にあまり関わっていませんでした。さすがに存在を忘れられてはいけないと、邪な気持ちで参加したことは否めません。しかし参加し、率直な感想は、「良かった、また参加したい」でした。

私は兼がね、「今一番大切なものは心の温かさである」　と申し上げてきました。

それは思いやりであったり、温かい食事であったり、温かいお風呂であったりします。今回の一泊旅行はそのすべてを兼ね備えた本当に素晴らしいものでした。

私は入浴の時には、脱衣所、浴室を行き来していました。皆さん普段なかなかお風呂に入ることも少ないのか、本当に気持ちよさそうに、赤子のような無垢な表情で笑ってくれました。

私はこの先どんなに辛いことがあっても、あの表情を思い出せば乗り切れるだろう本当に素晴らしい表情でした。

キャブは今、ボラセン建て替えに伴い、その存在が問われています。しかしタクシー業界はプロの技術で運送は出来ても、お客さんにあの表情をさせることは出来ないだろうと思っています。運行回数の数字の裏に隠れた、「心」を訴えれば、まだまだ、キャブは市民に必要とされるだろうと確信を得た一泊交流会でした。

平成 26 年度総会報告

平成 26 年 4 月 29 日（火）　午前 10 時より三鷹市市民協働センターにおいて、NPO 法人みたかハンディキャブ平成 26 年度総会を開催いたしました。

正会員出席者４２名・委任者１５名で定数を満たし成立いたしました。

2 月の臨時総会にて就任された宇田理事・南雲監事・中根監事が退任。新たに、平理事・伊藤監事・坂東監事が選任され了承されました。

中村顧問が経理担当として就任しました。

新理事会体制は次のようになりました

理　事　長	宮田　榮一	総務部担当副理事長	吉野　正	
運行部担当副理事長	東垣　隆満	広報交流部担当副理事	野本　信治	
理　　事	須山　正人	水流　ゆかり	鎌形　忠五	桑原　正男
	菅野　邦久	平　智享	今井　美江	佐藤　隆志
	戸内　大介			
監　　事	伊藤　五十鈴	坂東　日出彦	経理担当顧問	中村　建治

新理事　監事ごあいさつ

今総会で理事を仰せつかりました。これまで主に運転ボランティアとしての活動に携わってきましたが、本年の初めころから、コーディネーターや交流誌『あおぞら』の制作を担当することとなりました。今後、運転ボランティア、コーディネーター、『あおぞら』の担当者として、また理事としてご利用者の皆さんと、みたかハンディキャブの発展のため、お役に立てるようよう努力する所存です。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。　理事　平　智享

平成 26 年度総会で、監事のお役をつとめさせていただく事になりました。

大半を占めているニューフェースの役員たちともオオイニ語り合いながら、「みたかハンディキャブ」の運行が利用者さんの生活やそれを支えている方々の生活を穏やかで豊かなものにするように勉めますので、どうぞ宜しくお願いいたします。　監事　伊藤　五十鈴

私は２０１１年１０月に運転者講習を受講して、１２月１３日から望月さんの同乗指導の下、運転ボランティアをスタートしました。あれから約２年半経過し、先月末で２３８回の送迎を致しました。お陰様で利用者さんは勿論ですが、車両を含めて無事故でした。この記録はこれからも継続するよう安全運転に努めます。この度、キャブの監事の任を仰せつかりましたので、「ハンディキャブ」の健全経営を第一にコンプライアンス遵守を注視してまいります。　監事　阪東　日出彦

みたかボランティアセンター建て替えについて

理事長　宮田　榮一

今年２月に新理事体制になりもうすぐ半年になります。４月の総会では、あたらしいスタッフが加わりました。６月のキャブ一泊交流会も滞りなく終わり日々の運行も順調に行っております。

我々が日々の活動拠点で利用している三鷹図書館に隣接するボランティアセンターが、老朽化のため、建て替えることになりました。来年（平成２７年）５月から工事が始まり、２８年中に完成予定です。

その間事務所・駐車場を三鷹市内に仮住まいする事になります。場所等もこれから探すことになります。今から準備はしていますが、これから２年間は従来通りの動きが困難になると思います。

利用者の皆さんには、日々の運行等で極力ご迷惑をかけないようボランティアー同努力して行く所存です。

また実際活動するボランティアの皆さんにも多大な負担を求めることになると思います。

予定が明確になり次第皆さまにお知らせいたします。ご理解・ご協力の程、よろしくお願い致します。

新入会運転ボランティア自己紹介　　川村　幸一

『はじめまして』

平成 26 年度　“みたかハンディキャブ”新入会員の川村 幸一です。

自然環境に恵まれた三鷹の地、牟礼に移り住んで四半世紀が過ぎました。

住み心地の良い牟礼に感謝をしながら、今までの経験も生かしつつ、四季折々の太陽の下で、身体を動かし汗をかきながら、やりたい事を好きな時間に・・・、楽しみながら日々過ごせることが自分の元気の源と考えています。また、年甲斐もなく“自分ができること”があれば、新しいことにも挑戦してみたいと欲張りながら日々ボランティア活動を楽しんでいます。

そんな中、知合いの紹介で“みたかハンディキャブ”を知り、年齢制限「70 歳未満」との事で今年 1 月に第 32 回福祉有償運送運転者講習を申込み、5 月に講習会を修了しました。

その後、諸先輩のご指導とご鞭撻をいただきながら、何とかハンディキャブの運行研修を経て、6 月 11 日に運転者証を有難くいただき、活動の一員に加えさせていただきました。

運行活動に当っては憶えなければいけない事ばかりで、送迎場所の事前確認を始めとして運行全般の流れの習得に日々苦戦中です。

・・・が、コーディネーターを始め先輩達の親切な指導と助言に加えて、利用者さんの道案内もいただきながら、“安全運転と介助を心掛けて”自分なりに挑戦しているところです。

利用者さんを始め、先輩の方々には今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

みたかハンディキャブ・スローガン

真心と笑顔で走る「あおぞら号」

＊今後の主な予定

１．７月２６日（土）16：30～18：30　納涼まつり（建て替えに伴い、現ボランティアセンター最後のまつりとなります）

２．８月３０・３１日　日本テレビ　２４時間テレビ　送迎参加予定

３．９月　　敬老会　送迎参加

４．９月２０・２１日　有償運送講習会

５．１１月　２日（日）日帰り交流会

６．１１月１６日（日）福祉バザー

＊広報交流部より

１．６月一泊交流会で利用しました補助事業については、
（公財）日本チャリティ協会 Tel：（03）3353-5942 または、ハンディキャブまでお問い合わせください。

２．１１月２日（日）日帰り交流会は、場所等決まりましたらお知らせいたします。

３．１１月１６日（日）　福祉バザーが開催されます。皆様の物品提供をお願い致します。

運転ボランティア募集中　　あなたのちからが必要です！！

私達は,福祉車両「あおぞらA～H号」の8台を使用して、障がいや高齢のために移動が困難な方の外出をお手伝いしています。この「あおぞら号」を運転して下さる方を募集しています。ご応募をお待ちしています。また、お知り合いの方がいらしたら、是非ご紹介ください。

NPO 法人　みたかハンディキャブ　　TEL0422-41-0185　までご連絡下さい。
三鷹市上連雀 8-3-10　みたかﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ二階（三鷹図書館本館の南隣り）

名刺・はがき・封筒・
チラシ等の印刷
（データ持込可）
印章・各種ゴム印
ラミネート加工等
全てがスピード対応!!
とにかく便利なお店です。
是非一度ご来店ください。
http://seibundo-n.com

文具・事務用品
誠文堂

TEL：042－422－9447
西東京市谷戸町2-9-3

「こんにちは！　ういろうの会です」

朗読ボランティア　ういろうの会　　向坂　高子

皆様の季刊誌「あおぞら」の題字のところに　協力：朗読ボランティア「ういろうの会」とあります。「これは一体なんだろう？」と思われた方も「知っているわ」と思われた方もいらっしゃるでしょう。

先日、広報の野本様より原稿依頼を頂き、ほんの少し紙面にお邪魔させて頂く事になりました。

私たちは、視覚障がいのある方や高齢で字が読みづらい方のために三鷹市の刊行物などをカセットテープやＣＤＲに録音してお渡ししたり、ご自宅まで伺って書類を読んだりするなど、読むボランティア活動をしているグループです。

お手元に届く「あおぞら」とほぼ同じ時に、障がいのある方[illegible]うに「声のあおぞら」として発行をお手伝いしています。

キャブ利用会員の中尾俊彦さんから、様々な情報を提供していただいています。

本号では、その中から、一分線香　江戸小噺に収録されている小噺をご紹介させていただきます。

・

となりの空き地に　囲いができたよ　　へぇ～

鳩がお前の前に何か落としたよ　　ふーん

灰皿がひっくりかえったよ　　はい、ふきましょう

この帽子は　どいつんだ？　　おらんだ。でもいらん

編集後記

　平成２６年夏号をお送りします。
この交流誌は、ハンディキャブの活動を通じて、利用者とボランティアの交流を深めるためのものです。
　今号は一泊交流会もあり、多くの方々から交流会に関する文章をいただき、誌面も充実したものとなりました。心よりお礼申し上げます。
　一泊交流会は天候不順にもかかわらず、大きな支障もなく、楽しい想い出を残して、無事終えることができました。
　今後は事務所の建て替えという難事が控えておりますが、皆様のご協力ご理解をいただきますようお願い申しあげます。（Ｔ）

発　行

ＮＰＯ法人　みたかハンディキャブ

〒181-0012　三鷹市上連雀８－３－１０

みたかボランティアセンター２階

ＴＥＬ　０４２２－４１－０１８５

ＦＡＸ　０４２２－４１－０２７４

Ｅ－mail ： m-cab@parkcity.ne.jp

ホームページ ： みたかハンディキャブ

☆みたかハンディキャブ緊急連絡先☆

＊事務所時間外「17：00～翌９：00、日祭日」で発生した翌日および当日朝のキャンセル等で緊急に連絡が必要な案件は緊急連絡先へ連絡をお願いします。

＊なお、前日確認・予約はできませんので、ご理解の上、ご利用下さい。

東垣副理事長・運行責任者　０８０－１１０２－７２８１

万一、上記連絡先で連絡が取れない場合のみ、下記にご連絡下さい。